

# ルンポカンリ北壁初登攀記録

中 島 健 郎（関西学院大学山岳会）

## はじめに

2016年秋、平出和也と私はチベットのルンポカンリ（7095m）北壁の初登攀をした。日本出国から帰国まで3週間、登山期間は10日間という短い期間での登山であった。帰国後、みんなに言われた言葉は、「もう帰ってきたの?」とか「いつから出発?」といった具合。簡単にあっさり登って帰ってきたんだろうな、と思われてしまうのも仕方ないことだが、実際そんなことは一切ない。コックやキッチンボーイのいない二人だけの登山、前腕とふくらはぎのパンプに耐える氷雪壁、血を吐くほどの高度障害など、それなりにドラマはあった。それ以上に、自分たちが思い描いていたラインでクライミングができたことが何より楽しかった。

## ルンポカンリとは

ラサから西方700kmに位置するカンティセ山脈最高峰の7095m。1994年春に日本ヒマラヤ協会隊が北東稜から挑戦したが、6200mで断念。2年後の秋に中国・韓国合同隊が北東稜より初登頂している。カイラスへの主要な公路から見える山だが、第2登の記録は無い。そんな北壁に目を付けたのは、昨年アピ遠征を一緒に行った平出だった。

標高的には7000mを越えていて、チベットらしくどっしりとした山姿。全体的に雪をまとい、遠目ではパツとしないそこらへんの山。だからこそ今までほとんど人が訪れることも無かったのだろう。人がほとんど入っていないというだけで、ワクワクする。冒険的な登山ができそう。他の候補もあったものの、

いつの間にか二人はルンポカンリにとりつかれていた。

## アプローチ

9月8日、まだまだ暑い日本を出発して、成都經由ラサへ降り立つ。日中の日差しは強いが朝晩は涼しい。過去2回の記録は春と秋にそれぞれ行っているが、我々二人の都合とモンスーン明けの周期をみてこの時期にした。できることならネパールから陸路で入った方が近そうだったが、未だにザンムーの国境は閉鎖されており、唯一交易されているキーロンも外国人の通行は禁止されているため、仕方なくラサから入国となった。

今回、ヒマラヤ遠征では初の試みとなるベースキャンプ二人きりプラン。もちろん二人で行っているので当たり前だが、BCスタッフすら雇わず、我々二人で炊事する。BCで使用するキッチン道具や食糧なども自分たちで買い出しをする。普段から料理をほとんどしない男二人が揃ってしまっているので、「とりあえず米と肉と中華鍋があれば大丈夫か」的なノリで適当に買い出しをする。ラサでは登山道具以外は基本的になんでも揃っている。肝心の山道具が意外と少ないことに驚きだが、ガスカートリッジだけは無いと命取りになるので、中国アウトドアメーカーOZARKで購入。ベースキャンプ用の火器はプロパンにしたが、道中のラツェにあるチェックポストでプロパンガスを持っていると没収されるようで、最後の町サガで生ものと一緒に購入することにした。

ラサからは快適なワゴン車にドライバーと連絡官

### 3. 海外登山記録

と我々の四人のみ。公安によって監視された公路は快適な舗装路で、スピード違反も嚴重。600km離れた最後の町サガまで、車に揺られて2日目に到着。3日目にはベースキャンプ最寄りの村（カルジャン）に到着。目的の北面ベースまではデコボコのダート道なので、ジープやトラックが無いとさすがに行けない。この先の車両が手配できなかったのも、いよいよトレッキングかと思い、そこらじゅうに放牧されているヤクの手配をするも、なぜか断られる。なんと、荷物を持たせたことがないので、運搬には使えないとのこと。ヤクといえば荷物をたくさん背負って歩いているイメージしかなかったが、それは登山隊が多く入る山の近くだけだったようだ。結局村長と交渉して、バイクで連れて行ってもらうこととなる。隊荷を自分たちで運ばなくて一安心したものの、デコボコの悪路をぶっ飛ばすバイク2人乗りのほうがよっぽど命の危機を感じた。



バイクでBC入り

#### 二人きりのベースキャンプ

バイクの兄ちゃんが帰った後は、ベースキャンプには我々二人のみ。連絡官はシュラフとテントを一応車に積んでいたようだが、ベースキャンプに居残る気配はなく去って行った。まずはBC設営と水汲み、そして今晚の食事。料理にはこだわりのない二人なので、野菜炒めでも食べておけば大丈夫と意気込ん

で豆板醤を大量に買ったものの、辛すぎて初日から飽きてしまう。この先が思いやられるスタートとなった。



やる気あるのかコック長（平出）

#### 順応

BC入り翌日、ようやくルンポカンリ全容が見えた。目的の北壁はラインがつながってそうで、一安心。BCの高度には、二人とも問題なさそうなので、早々に馴化を兼ねて偵察山行へ出る。下降路は北稜が使いそうなので、北稜の6250m付近で2泊。最高到達地点は6750m付近まで登れた。横から眺めていると、目的のラインには雪崩はないものの、大きなスノーシャワーが度々降り落ちていた。山頂付近は雪が多く、雪の状態がシビアである。ここ数日曇ったり晴れたりを繰り返していたが、大きな天候の崩れは無かった。



ルンポカンリ全容

BCに戻り天気予報を確認すると、明々後日の午後から悪天で、しばらく大荒れ予報。今現在の壁は最高のコンディションだが、悪天をやり過ぎし雪が安定するまで待つとなると果たして何日後か、最悪はもう取り付くチャンスがなくなる可能性もある。個人的には高所馴化に不安があったものの、このタイミングをやり過ぎす選択肢は無かった。

### アタック

ベースキャンプでの休養は1日のみ。半日はアタック準備に費やしたので、実質ゆっくりしたのは数時間だった。急にアタックすることになったが、不思議と気持ちは落ち着いていた。特別な気負いは無く、自分が北壁に取り付いて登っているイメージが頭に描かれていたからだろう。

ベースキャンプから送り出してくれる人はいない。今までと違うことは、テントに鍵をかけて出発したこと。なぜなら、先日の順応山行時に、貴重な登頂後ビールをどこぞの遊牧民か知らないが盗まれてしまったのであった。

氷河湖の右岸からモレーンに入り、北壁へ取り付く。取り付きから見上げた北壁は、偵察時に遠望したのとは違いそそり立ってかぶっているように感じる。はじめしばらくは急な雪壁が続くが、状態は悪くなく、雪崩の心配もない。アタック初日は壁の取り付きかルンゼの入り口ぐらいまでしか考えていなかったものの、状態が良く、あれよあれよとコンテで高度を稼ぐ。表面が雪であっても、少し掘ればガチガチの氷が出てくるのでランナーは全てスクリューで取れた。所々バーチカルアイスがある場所ではビレーをしながら進んだが、大半はコンテでスピードアップ。ほとんど休むことなく行動していたので、ふくらはぎが悲鳴を上げている。

いつの間にか陽が傾き始め、いよいよ幕営できる

場所を探さなくてはいけないタイミングだが、ルンゼの両側は切り立った岩壁でルンゼ内は安全に休める場所はない。身体のキレが無くなってきたが、もう少しの辛抱だ。ルンゼ内をさらにコンテで抜けきると、ようやく左の岸壁が雪尾根に変わり、テントサイトを作れそうな斜面が現れた。傾斜はきついが、カッティングすれば何とかなる。いつの間にか晴れ渡っていた空は黒い雲に覆われ、雷が轟き始めた。次第に霰が降り出して、カッティングすれども一瞬にして霰が流れ込んで掃き出しての繰り返し。ようやく2時間の掘削作業の末、テント内に避難する。完全フラットには程遠いが、二人が横になれるだけのスペースは確保できた。このころから恐れていた通り、僕にとってはお馴染みの高度障害に陥る。本来なら順応で泊った高度以下で幕営予定だったが、500m以上も高い6760mまで登ってきてしまった。高所に弱い僕はテキメンに高山病となり、飲食が不可能となる。

翌2日目は、周りが明るくなってから目が覚める。曇ってはいるが、まだ天候は持ちそうだ。高山病のわりには意外と睡眠できていた。核心部は終わっており、あとは雪壁を登るだけというのに、絶不調。未だに飲み物すら受け付けない。こんな状態で登れるのか不安ではあったが、今さら下るわけにはいかないので、重い身体に鞭を打って山頂を目指す。昨



ルンポカンリ山頂にて

### 3. 海外登山記録

夜の降雪で頂上稜線までは新雪が積もっており、軽くラッセルとなる。稜線までもうすぐのように見えるのに、一步一步が重い足取りで、なかなか思うように進まない。ようやく頂上稜線から張り出た雪庇を乗っ越すと、そこにはポッカリと広大な景色が広がっていた。山頂まで緩やか登りを100mほどこなすと、ようやく登る場所は他になくなった。

「一刻も早く下山したい。」今までにこれほど切望したことはあっただろうか。山頂の余韻に浸る余裕など一切ない。一応登頂写真もセルフタイマーで撮影したが、ピンボケだし、カッコよくポーズする余裕もないくらい弱っていた。

頂上からは細いナイフエッジになっており、スタカットで下降した。北東稜から偵察時に途中まで登った北稜を経由して、その日中にベースキャンプへ戻った。



瀕死の中島

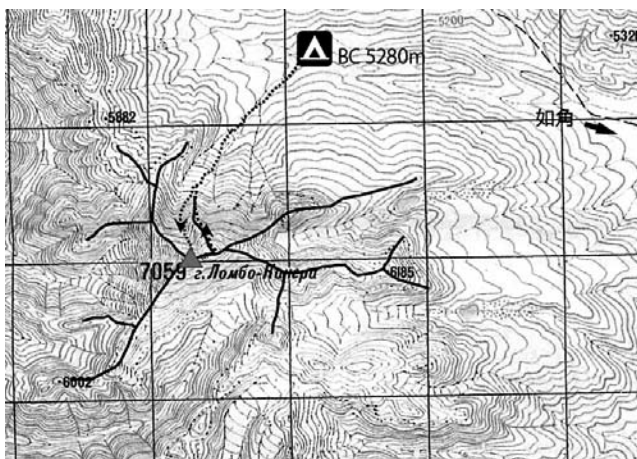
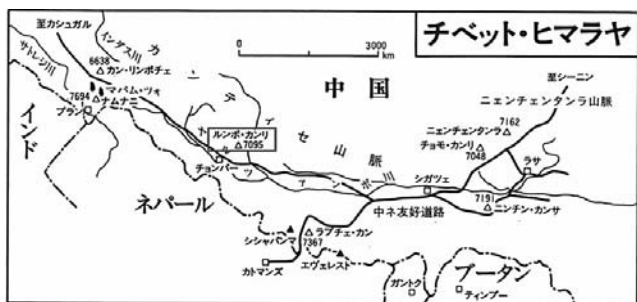
#### 総括

登山をはじめて12年が経つ。仕事やプライベートでも海外登山は何度か行っていたが、ようやく自分の納得がいくラインと方法で頂上を踏むことができた。高山病でフラフラになりながらも、パートナーに助けられ、ようやく掴んだ山頂であった。ただ、そんな状態であっても、今回パートナーの平出が先頭に行くことはなかった。“チャンスは自分で掴むも

の” その一心で僕にすべてのリードを任した。まだまだ経験の浅い僕からすれば、パートナーの安心感があったからこそズンズン突っ込めた。どうやら、また一つ借りを作ってしまった。

結果的には1泊2日のお気楽登山と思われても仕方ないかも知れないが、そこに至るまでの準備はそれなりに行なっている。2人だけで身軽だったので、BC入りから撤収まで10日間の登山でできたのも偶然ではないだろう。最大の失敗はBCの食事を甘く見ていたこと。やはりコックは偉大だ。





DATE : ルンポカンリ北壁初登攀Loinbo Kangri  
North Face

ルート名 : Loinbo Direct 1400m/WI5

Member : 平出和也 (37)、中島健郎 (31)

【行動概要】

- 9月7日 羽田ー北京ー
- 9月8日 ー成都ーラサ(3650m)
- 9月9日 ラサ準備
- 9月10日 ラサーシガツェ
- 9月11日 シガツェーサガ
- 9月12日 サガーガルジュン村ーサガ
- 9月13日 サガーガルジュン村ーBC(5280m)

- 9月14・15日 偵察・レスト
- 9月16～18日 下降路の北稜偵察・高所順応(6250m泊)
- 9月19日 レスト
- 9月20日 BCー北壁6760mにてピバーク
- 9月21日 ー山頂ー北稜経由ーBC
- 9月22日 レスト
- 9月23日 BC撤収ーラツェ
- 9月24日 ラツェーシガツェ
- 9月25日 シガツェーラサ
- 9月26日 ラサー成都
- 9月27日 成都ー羽田

【アタック装備】

- ・ロープ (マムート トワイライト) 7.5mm×50m 2本
- ・アイススクリュー (レーザースピードライト) 13cm 2本、17cm 8本、21cm 1本
- ・アルパインクイックドロウ 8 set
- ・120cmスリング 3つ
- ・捨て縄5mm×10m
- ・ピトン 2枚
- ・ストッパー 1個
- ・トライカム 2個
- ・アッセンション 1個
- ・スノーバー 4本
- ・ジェットボイルSOL チタニウム
- ・テント (G-Light x 1～2人用)
- ・シュラフ 2つ
- ・マット (Z LiteSolスモール 1枚を半分にカット)
- ・テルモス900ml 1本
- ・ナルゲン 1L 1本
- ・食料 2泊分+行動食

※本遠征は以下の皆さまにご協力いただいた。

- ・特別協賛 ICI石井スポーツ
- ・日本山岳協会 海外登山奨励金
- ・日本留守本部 寺沢玲子 氏

※本遠征の動画

ICI石井スポーツ ホームページ

アスリート→登山→平出和也→平出和也の部屋